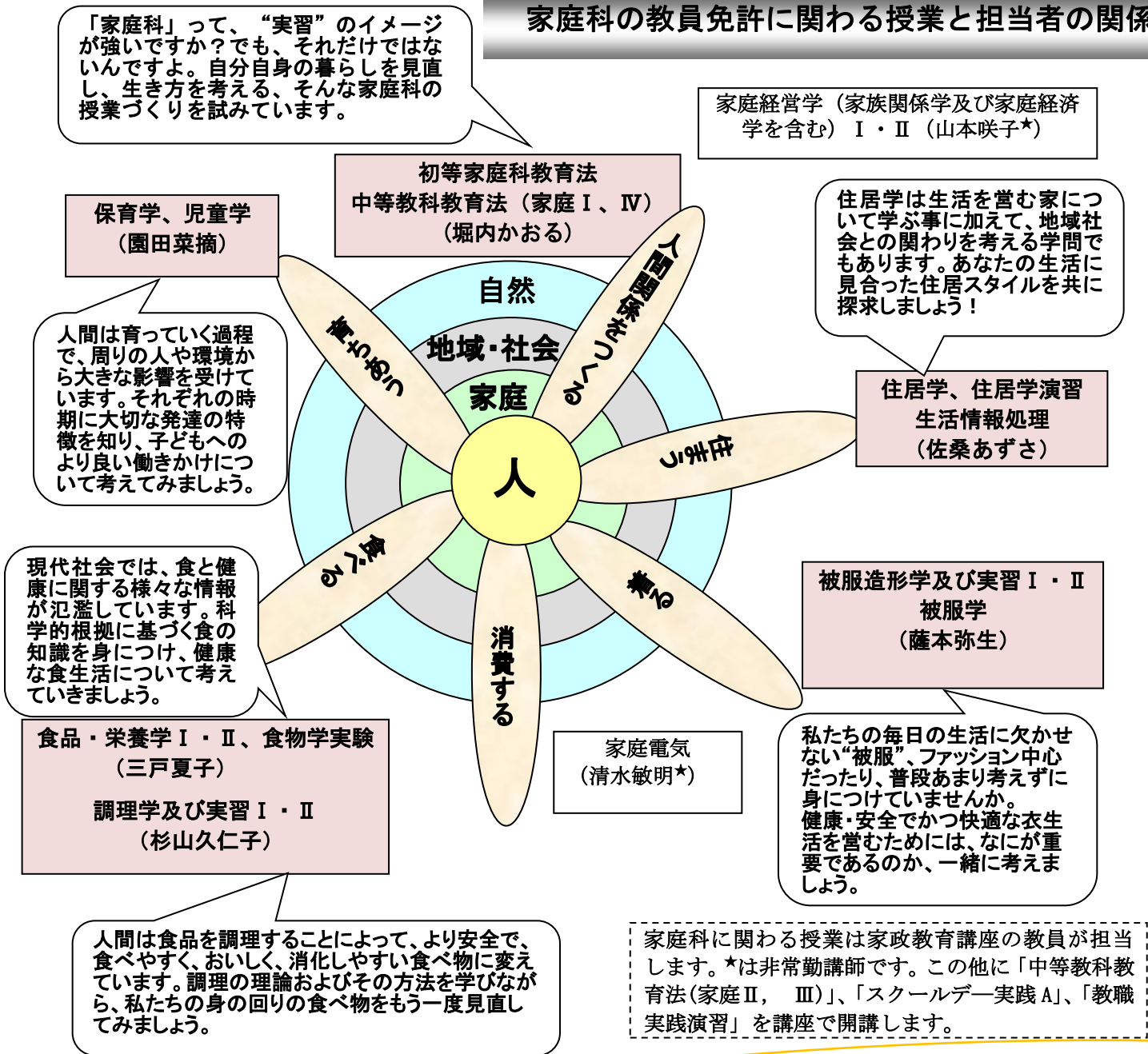


# 専門領域家庭科

家庭科は、私たちの毎日の暮らしに関わる様々な事柄を手がかりとして、自分にとって一番身近な環境である「家庭」を基盤にして、「地域」、「社会」へと視野を広げながら、自分と人、モノ、環境の相互関係について考え、より良い生活のあり方を追求する教科です。福祉、環境、ジェンダーなどの現代的課題に関わっています。

## 家庭科の教員免許に関わる授業と担当者の関係図



### 【選考試験の方法】

希望者が受け入れ上限数を超えた場合は、面接によって選考する予定です。

## 卒業生の声 1



「家庭科で学ぶことは生きるために必要になる「生活力」です。それは技術だけに限らず、自分の今の生活をより良くしていこうという考え方でもあります。専門領域家庭科では、これらの「生活力」を家庭科教育・調理・栄養・被服・住居・保育や家族といった分野から学びます。

私たちの生活は日々変わっていて、家庭科で教えるべき内容も少しずつ変化しています。私は専門領域家庭科に入ってから、自分の生活を見直し、家庭科で学ぶことと自分の生活とを関係づけて考えるようになりました。今の自分の生活から家庭科で学ぶことの重要性を感じることができ、専門領域家庭科の魅力の一つです。模擬授業や発表を通してお互いに意見交換ができる場が多く、様々な考え方を知ることができました。男女問わず家庭科に興味のある方は、ぜひ専門領域家庭科と一緒に学びましょう。

## 卒業生の声 2



現代の社会は多様な情報があふれる中、様々な選択肢の中から取捨選択しなければなりません。科学的な根拠、客観的判断力をもって主体的な行動をする力が求められます。

家庭科は、自身の生活に足場を置いて家庭や自分と繋がる社会を見つめ、どのように生きるかを考える場となります。今の生活から「よりよく生きる」ためにどのような道を選び実践するか考えて行動する力を身に付けることができることが、家庭科の魅力だと思います。

家庭科教育・調理・被服・住居・保育・栄養・家族について専門的に学びますが、それらは別々のものではなく全てが生活の中で相関しあうことに気付きます。専門分野の学びを広く深め、それらを総合的に自分自身の中で再考し、学校現場で未来の生活者である子どもたちに発信していくための実践的な力をぜひここで身につけて下さい。

## 卒業生の声 3



社会化が進み、食事や服の調達に関して外部化が進み、昔に比べ調理や被服製作の技術習得が必ずしも必須のものではなくなっているのは事実ですが、家庭科で実習が行われる意味を考えてみてください。私自身は、技術を習得しその過程を振り返ることで新たな気づき、学びがあり、それが家庭科だからできることだと捉えています。みなさんも、部活などで結果を求め精一杯努力し、それを終えたとき同じような経験をしたでしょう。この学びは結果にこだわるからこそ得られる学びだと考えます。

また、家庭科は課題発見・解決能力を育成し、実践力を養う教科です。その範囲は自分たちの身の回りから始まり、社会問題にまで及びます。この教科を専攻にすることで私自身、人としてとても成長できたと感じています。様々な学問について学ばなければならないため大変だと感じることもありますが、それすらも楽しいと思える魅力的な教科です。

## 卒業生の声 4 (小学校教員)



私は、教師の仕事は「家庭から子どもたちを預かり、社会へと返す（送り出す）こと」だと考えています。そして、そのことを踏まえて家庭科という教科を見直すと、家庭科で学ぶことは、衣食住だけでなく、家族と関わることや子どもを育てることなど、社会の中で生きることそのものについて学ぶとも言えます。

また、家庭科で学ぶことは各教科領域で学んだことを社会生活の中で活かしていくことでもあり、家庭科の学習という視点から見ると、各教科での学習が自然と繋がっていきます。小学校の学級担任として、1日を子どもたちと過ごし、様々な教科の学習をしていく際、大切なことは、学習内容同士や学習と生活とをどのように連繋させていくかです。家庭科の学習、という視点から各教科を繋げてみる感覚を養えたことは小学校教師としての私の財産であると感じています。